

私の超個人的イタリア考

山田美津子

本当に久しぶりにはまホールで歌わせていただくことができ、スタッフの皆様、当日ご協力いただいた方々、そして何よりそれほど降る雨の中、会場まで足を運んでくださった観客の皆様に、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

当日は極度の緊張（歌う前）と緩和（歌った後）のため、ろくにご挨拶もできず大変失礼をいたしました。

リサイタル形式のコンサートとしては3年ぶり、自分の中では一つの区切りとして、かなりきちんとした演奏会にしたいという、とにかく意気込みだけは一人前の、しかし多分に肩に力が入り過ぎた今回の演奏会でした。今思い返せば赤面してしまう次第です。しかし、また別の自分が「いや、やってよかった。決して全部が全部納得のいく出来ではなかったけれど、どこか必ず前より成長しているところがあるはずだから」とも（ちょっと都合がよすぎるかも知れませんが）思ったりしているのです。

個人的なことで恐縮ですが、私もいつの間にか三十路も半ばにさしかかり、ともすれば昨今の風潮に振り回され、「うわー大変！ 35ですって！ いやだ、いつの間にかこんなに年どっちゃったのかしら……」などと考え、ふさぎ込んでしまいそうになります（そんなことはないとおっしゃってくださる方、ありがとうございます）。

しかし幸運なことに、私にはイタリアで生活する機会が与えられ、数年間を異国の地で過ごすという経験を得ることができました。海外生活を体験された方ならどなたもご存じの通り、外国の暮らしの中では否が応でも精神的に強く、肉体的にも逞しくならざるを得ない状況に追い込まれます。なぜなら、海外では日本でいうところの常識云々はほとんど通用しないと断言していいからです。

たとえばイタリアの場合、デパートやお店の数、売っている

品物が日本に比べて（比べてはいけないのでしょうか）ものすごく少ないのです。自動販売機は地下鉄の構内に数台、コンビニに到ってはゼロ。物だけでなく、人の対応の仕方も大雑把でいい加減なことときたら（この国でも例外にもれず、お役所の人々の態度の悪さは天下一品）、怒りも通り越して、ただただ呆れるばかりです。

郵便事情のひどさは説明するまでもなく世界的に有名で、交通機関においても20～30分の電車の遅れなど当たり前。定時に出発したりすれば「あら、珍しい」と思うほど、そして度々行われる訳の分からないストライキ（バス、電車、タバコ業界、市の清掃課……ゴミを何日も取りに来ないので本当に困る）など、数え上げればきりがなくこの国の悪状況ですが、それにもかかわらず世界の人々に愛されているその理由は、いったい何なのでしょう？ 私もいろいろ考えてみたのですが、イタリアのここが他の国に比べて優れているという物には行き当たりませんでした。

ただ一つ言えることは、私はイタリアにいた時はとても若く、可愛く、魅力的な女性でいられたということです。もちろん、そう簡単に外見が変わるわけではありませんので、私の言いたいのは単なる気分の問題のことです。イタリアの人々（男女に関係なく）は、私をきちんとした大人の女性として扱ってくれるのです。そして、こちらが心を開きさえすれば、子供からお年寄りまで同じように笑顔を返してくれるのです。その中で私は責任を持って、しかし極めて自由に行動することが許されるのです。これはイタリアにいる時には当たり前の感覚なのですが、残念ながら日本に帰った途端、ぼんやりとしたヴェールの向こうに薄れて消えてしまいました。でも、私の心の中に少しずつ溜まっていった、ある時は思いがけなく人から貰い、ある時は自分で苦労しながら見つけた大切なもの——自分を信じるということ。このイタリアの大地からすくい取った命の水をいつまでも枯らさず若々しく（年齢は関係ありません！）、美しく（努力します）、そしていつも“生きている歌”を皆様に聴いていただけますように、これからも精進して参りたいと思っております。



音楽友の会との出会い

私は今まで12年間生きてきて、いろいろな人に出会いました。素晴らしい出会いがたくさんありました。その中の一つに、音楽友の会との出会いがあります。私が7歳の時、ピアノの先生に勧められて入りました。いろいろな楽器の演奏を聴くことができ、毎回楽しみです。歌の演奏会の後には、家に帰って弟と一緒に歌ったりもしました。

3年前にパスカル・ゴダールさんのピアノリサイタルがありました。演奏はとても迫力があり、息づかいまで聞こえてきてびっ

くりしました。そのときにゴダールさんにステージで花束を渡すことができ、とても素敵な夜でした。ますます音楽が大好きになりました。音について深く考えるようになって、楽しさや難しさを感じるようになってきました。私はいつの日か、演奏家になりたいと夢見るようになりました。人の心の中に入っていけるような演奏ができたらと、いつも思っています。これからもいろいろな人に出会って、たくさんの音楽にふれあっていたいです。

中学1年 安藤真野

お元気ですか 会員のみなさん！

20世紀最後の年の“ふれあいコンサート”も残すところ2回ですが、皆様楽しんでいらっしゃるでしょうか。今年の1月末から主人の仕事の関係で横浜に住んでいる私は、浜松に戻るまでの間（勝手に戻るつもりでいます）、スタッフを休業させていただいています。こちらでは一人の聴衆として、横浜や東京でのコンサートに出掛けております。先日は、横浜で30年近く続く会員制の会が主催する、フルティストの工藤重典さんの演奏会に行ってきました。浜松で言えば福祉会館ホールと同じくらいの会場なのですが、椅子の配置がゆったりしているばかりでなく、空気が何となく“ほんわか”としているのです。30年の

歴史が積み上げてきたものなののでしょうか。こういう雰囲気演奏会ならば、初めてクラシックの演奏会に足を運ばれた方にも、肩の力を抜いて聞いていただけるのではないかと……。浜松音楽友の会も歴史を積み重ねているところですね。通い慣れた会員の方々が、新しい会員の方々が温かくてゆったりした雰囲気の中に招き入れて差し上げる、そんな“ふれあいコンサート”になっていくのではないのでしょうか。私が戻った時には是非、そんな中に仲間入りさせてください。その頃は“ふれあいコンサート”も30年に近づいているでしょうから。

元スタッフ 戸部芳子

ようこそ、パスカル・ゴダールさん

第2回浜松国際ピアノコンクールの真っ最中、会代表の佐藤安子さんからお電話が入りました。「ねぇねぇ、聞いてちょうだい。とても素敵なピアノだったのに、本選に残れなかったピアニストがいてネ……みんなフンガイしているのよ。私たち、彼のピアノを皆に聴いてもらおうとミニリサイタルを企画しているところなんだけど……」これが、私がパスカル・ゴダールの名を知った始まりでした。

その後も浜松のスタッフの熱は高まり、「ぜひ、四季のコンサートでも」となりました。

1997年、浜松・静岡音楽友の会が共同で彼をお招きした時の演奏は、皆様も印象に残っていることでしょう。静岡ではリサイタルだけではなくマスタークラスも開かれ、大変熱心に受講

生のイメージが広がるレッスンをしてくださいました。その後、彼はいくつかのピアノコンクールに入賞して活躍の場を広げています。

代表の佐藤さんとの雑談に「浜松のスタッフが見いだしたピアニストが、その後どんなふうにも成長していくのか見続けるのも面白いわね」と、ふと私がもらった感想が、パスカル・ゴダールの再リサイタル（来年・秋）となりました。

2001年、新しい世紀、音楽友の会（浜松・静岡）も、より豊かな時を求めて心新たに歩を進めます。応援してください。そして、この若きピアニスト、パスカル・ゴダールにも皆様の声援をお願いいたします。その成長ぶりを是非お楽しみください。

静岡音楽友の会代表 三城苑子

これからのコンサート予定

秋

吉野直子と仲間たち 室内楽の夕べ

10月31日(火) 6:45 PM

国際的に活躍している吉野直子（ハーブ）を中心に、佐久間由美子（フルート）、矢部達哉（ヴァイオリン）、川本嘉子（ヴィオラ）、藤森亮一（チェロ）という、それぞれがソリストとしても評価の高いメンバーの大変豪華なアンサンブルです。様々な楽器と有能な個性の組み合わせから紡ぎ出される音楽。期待に今から胸がときめきます。満員の“はまホール”で聴きたいものです！

プログラム

前奏曲、マリーヌとシャンソン……………J.G. コバルツ
セレナーデ 作品30……………A. ルーセル
五重奏 第2番……………J. フランセ

他



冬

宮本文昭 オーボエリサイタル

12月3日(日) 6:45 PM

ピアノ 寺島陸也

人気・実力ともにNo.1のオーボエの宮本文昭は、長年活躍の場であったケルン放送交響楽団（ドイツ）を1999年に辞任して本拠地を日本に移し、演奏活動に加えて教育にもその才能を大いに発揮しています。世界の多くの室内楽奏団はもとより、ジャズや和太鼓など、他分野の奏者との共演、また映画やドラマの主題曲などジャンルを越えて大活躍。彼の“今”を聴く絶好のチャンスです。

プログラム

オーボエ・ソナタ Op.17……………ベートーヴェン
（原曲：ホルン・ソナタ）
アダージョとアレグロ Op.70……………シューマン
オーボエ・ソナタ……………ドニゼッティ
オーボエ・ソナタ……………サン＝サーンス



★お願い！ 演奏会の日時をお忘れなく★

おかげさまで浜松音楽友の会には現在、はまホールを満席にするぐらいの会員がいらっしゃいます。それにもかかわらず残念なことに、時々空席が目立つように思われます。どうぞ演奏会の日時をお忘れになりませんように、お気をつけ下さい。もしお出掛けになれない時は、チケットをお知り合いの方に差し上げて頂けませんでしょうか。一人でも多くの方々にいらして頂き、会場いっぱいの人々と拍手で演奏者をお迎えし、「ふれあうことのできる音楽会」を催せたらとスタッフ一同願っております。

2001年 ぶらあいおんがくかい 予定

春 須川展也とトルヴェール・クワルテット 4月14日(土)

1987年結成のサクソフォンのソリスト集団であるトルヴェール・クワルテットは、須川展也（ソプラノ）、彦坂眞一郎（アルト）、新井靖志（テナー）、田中靖人（バリトン）のメンバーで活発な演奏活動を展開している。それぞれが個性的で高度な技術を持った彼らの演奏は、多くの注目を集め、常にトップの集団として圧倒的な支持を得ています。

夏 ^{のぶ}高橋薫子 ソプラノリサイタル 6月26日(火)

日本のオペラ界で今、最も期待されているソプラノの高橋薫子は、澄みわたる美声と可憐な舞台映えのする容姿で、数々のオペラ公演で絶賛されている。安定したテクニックで古典歌曲からモーツァルト、ロッシニ等、魅力的なプログラムが楽しみです。

秋 パスカル・ゴダール ピアノリサイタル 10月10日(水)

浜松音楽友の会には二度目の出演。数々の国際コンクールに上位入賞し、1996年のマリアカラス国際コンクールでグランプリ受賞。その後、本格的にヨーロッパ各地でのリサイタル、およびオーケストラとの共演を続けている注目の若手ピアニストです。ワイセンベルグやスコダからも高い評価を受けており、その素晴らしいピアニズムは仏誌“La Lettre du Musicien”をはじめ、多くのヨーロッパ専門誌で絶賛されています。

冬 加藤知子 (ヴァイオリン) ・鈴木大介 (ギター) デュオ・リサイタル 12月予定

チャイコフスキー・コンクール第2位入賞以来、ソロだけでなく室内楽にも華々しい活躍のヴァイオリニスト加藤知子と、若手ギター界の中心的存在の鈴木大介とのデュオ・リサイタル。ヴァイオリンとギターという異質の弦楽器の共演は、今から大変期待が持てます。

※予定しておりましたハレー・ストリング・クワルテットはメンバーの都合により延期となりました。御了承下さい。

浜松出身の演奏家シリーズ 11日(金)

奥村友美ピアノリサイタル 5月18日(金)

全日本学生音楽コンクール中学生の部全国1位。1998年ポーランド第4回パデレフスキー国際ピアノコンクールにて第1位を受賞以後、その知的で鮮明な演奏に増々深み加わり、今後その成長が最も期待される若手演奏家です。

地元浜松での意欲的なプログラムにご期待下さい。現在、東京芸術大学4年在学中。静岡大学附属浜松中学校卒。

各回共 於：はまホール

★会員の皆様へのお願い★

会員日より 皆様のご寄稿をお待ちします。400字詰原稿用紙2枚以内でお願いいたします。テーマは自由です。

会員登録は、年度が変わってもそのまま継続されます。

退会希望の方は、ハガキに住所・氏名・電話・会員番号をご記入の上、前年度の12月末日迄に、事務局宛に退会の旨をご連絡下さい。

名義変更の方は、ハガキに旧会員と新会員の住所・氏名・電話・会員番号（旧会員の）をご記入の上、事務局宛にお送り下さい。

保育室ご利用の方は、コンサートの前日までに、有本 ☎053(449)0457までお申込み下さい。

開場時（開演30分前）から終演までお預かりします。1回500円です。

●インタビュー・花束贈呈係を募集しています。ご希望の方は、事務局までご連絡下さい。